

## 審議会等会議録

審議会等の名称	平成18年度 第1回山口市環境審議会廃棄物埋立処理研究部会
開催日時	平成18年 11月2日(木曜日) 10:00 ~ 11:50
開催場所	山口市防災センター 3階会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	糸原義人(部会長)、遠藤克彦、浮田正夫、藤井逸夫、藤原勇 (5人)
欠席者	なし
事務局	環境部 上野部長、坂廃棄物担当理事、勝屋理事、益本部次長 政策管理室 増田室長補佐 環境保全課 石津課長、山根主幹、田中主査、富永主査、杉山主事 ごみ減量推進課 西村主幹、岡崎副主幹、中川主任主事 日本水工設計(株) 今井課長、宮崎主任 (15人)
議題	1. 山口市環境審議会への諮問について 2. 一般廃棄物最終処分場計画について
内容	1 開会 2 委嘱状交付 特別委員の浮田委員、藤井委員、藤原委員へ、市長から委嘱状を交付。(山口市環境審議会委員の糸原委員と遠藤委員については同審議会の中西会長より部会委員に指名済み) 3 市長挨拶(挨拶の後、市長は公務のため退席) 4 委員紹介 5 部会長指名・部会長挨拶 山口市環境審議会規則に従い、山口市環境審議会中西会長が糸原委員を部会長に指名済み 6 審議 ①山口市環境審議会への諮問について 「山口市にふさわしい環境への負荷が少ない一般廃棄物最終処分場の施設・設備について」 (1) 山口市が環境審議会に諮問した内容

(2) 「循環型社会」に関するアンケート等について

(3) 今後の予定について

配付資料に沿って事務局より説明の後、審議が行われた。

■委員からの主な質問、意見等

●仁保地区の一般廃棄物最終処分場候補地については、話し合いはついていないのか。

<事務局>

候補地の集落は、全世帯 33 戸のうち 6 戸反対があるが、ほとんどの方は受け入れてもよいという思いは今もあると伺っている。説明会を行った下流の一集落は引き続き反対ということも伺っているが、感触として地域全体では賛成が多いと思っている。

●一番は水の問題か。

<事務局>

農業主体なので、やはり水の問題だと思う。

●廃棄物の焼却場やし尿処理場にしても、一般の人は総論賛成・各論反対。反対の原因というのは様々。ある自治体で処理施設をつくる時に、広い道路を作り舗装する計画があったが、土地が住宅用として売れるようになるので、道路の近くの人は賛成だが、近くでも住宅用として売れない人は反対だった。結局その候補地はだめになった。このように、なかなか難しいことがある。施設は必要だからやろうとリーダーシップをとらないと難しいと思う。

<事務局>

山口市環境審議会においても、審議会や研究部会で場所まで決めるのか、あるいは場所を想定して施設を考えるのかとご質問があった。そうではなく、総論賛成・各論反対の中で山口市全体の中で環境負荷のない技術革新を受けた最終処分場、あるいはこれからの管理の仕方はどうあるべきかということの審議をしていただき、結果としてこのような施設なら市内どのような場所でも可能であるとか、あるいはこういった場所は避けてこのようなものが良いなどについて審議して頂いた結果を持って、全市民に対して処分場の在り方、市民の循環型社会への役割ということを検討したうえで、最終処分場の協議に改めて行政として入っていこうと考えている。

●川の上流の方につくればいずれ川下へ流れるかもしれない。よって、上流の方につくるのであればそれに対する対策を立てる必要がある。海のそばでは、そうではなくて拡散することが考えられる。

●特定の場所を想定して検討を行わないということでも、谷間の処分場と海岸の処分場では技術的にも違って来る。処分場をつくるということは、水の問題と土壌汚染の問題、搬入車両の影響が大きいと考える。

<事務局>

一般廃棄物の処分場なので、基本的には一般家庭から排出されたごみであり、

汚染物質というのは限られてくると思う。中間処理施設が稼働すると処分場への搬入は4 t車で1日5台程度と想定されているので交通に支障をきたすことも考えられないし、処分場の場所については中間処理施設から遠くても問題はないと考える。

先に山口市内の特定の地域を絞り込んでの処分場ではなく、全域、例えば川の上流より状況の厳しいところのご審議を頂き、場合によって条件が変わればこの設備は簡単にしても良いという話になるのではないかと考えるが、一番厳しい条件の中で論点を進めて整理していただければと思う。

●この施設であるならば川上でも良い、この施設の水準であれば川下ではなくてはならないという水準があるようだが、この施設の水準というのは分かるのか。

●どこにつくっても、環境負荷の少ない安全安心な施設というのと相当厳しい水準になると思う。

<事務局>

最終処分場に捨てるごみというのは、中間処理施設を通して破碎したもののみ入れるので、ごみ質についてはある程度中間処理でチェックすることができ、ごみ質の水準は予測できると考えている。また、量についても、現在の2割程度に少なくなると想定されている。

●今の神田処分場の汚水がどの程度きれいに出来ているのか分からないか。今の浄化施設がどれくらいの性能があるのかは説得するのに重要であり、示すことが必要ではないだろうか。どのような設備を作ればどこまで水をきれいに出来るかということは、どういう施設をつくるかということについて重要ではないか。

●理論的にきれいにしようと思えばいくらでもできる。処理水を蒸発散しているところなどもある。しかし、廃棄物に関する水というのが問題で、いくらきれいにしても問題となる。

●水だけの問題ではないと思う。その意識は常に我々は持つておく必要があると思う。

●山の中につくるのであれば、東広島市のタイプのがっちりとしたものでないと説得できないのではないか。海岸であれば岩国市のタイプのものでも大丈夫という感じはする。

●水は費用をかければいくらでもきれいにすることは出来ると思う。

●環境についても考える場合も、水だけでなく周囲にマッチした施設でないと受け入れられないと思うので、様々な要因について考えながら進める必要があるのではないか。

●7万m<sup>3</sup>の埋立地は相当な広さになると思うし、建設すると現状とかなり変わってしまう。その変わるイメージが住民に十分イメージされて、それなら受け入れられるという事であればと良いと思う。水だけの問題ではないと思う。技術検討というが、ごみの問題は非常に広い。

●水の水質がどこまで浄化できるか、これによって、この施設の優劣が判定でき

るということ。あと、コスト的にお金をかければいくらでもきれいに出来るということだが、そこまで市としてやる必要があるのかという問題もある。それらの問題を解決できて、この施設を設ければ良いのではないかとということで宜しいか。  
<事務局>

それをお願いする。条件を設定しないと議論が絞り込めないということであれば、そのときにはご意見を受けて、時間を頂ければ整理してそういうことも汲んでいただいて論点の明快化に取り組んでいただけたらと思う。

## ②一般廃棄物最終処分場計画について

配付資料に沿って事務局より説明の後、審議が行われた。

### ■委員からの主な質問、意見等

●（現在の）神田の処分場の処理水の数値は飲料水に耐えうるのか。

<事務局>

直接飲料水ということは難しいと思うが、河川に放流する水質として問題はない。また、下流で取水してそれを水道水にする場合も、化学処理を行うが問題ないと認識している。

●山口市のごみ処理についてだが、資料中の表で、最終処分量が平成 22 年から 23 年にかけて減っている原因と、（小郡地区の）鍛冶畑や（秋穂地区の）青江の処分場があるが、これらの今後の使い方はどうなっていくのか。

<事務局>

まず、鍛冶畑最終処分場と青江最終処分場については、青江の最終処分場は遮水工、水処理施設がない。よって、搬入されるものは限定されている状況であり、今後も持ち込み品目の規制を受けたままで使っていくことになる。

鍛冶畑最終処分場は遮水工、水処理設備を設置している。神田最終処分場も含めた各施設とも、当初地元での設置の許可を頂くにあたり、持ち込みエリアというものがあり、旧行政区域内のごみだけを受け入れるということが前提となっている。従って、容量はまだあるが、持ち込みエリアは限られている状況。

資料の表中の最終処分量が減っている件については、まず、平成 20 年度から埋立の容量等が大きく減少していく。これは、リサイクルセンターで不燃物の破碎・選別を行う計画によるもので、鉄やアルミは資源化する。また、破碎・選別したもののなので、埋立効率が良くなることを見込んでいる。平成 20 年度は、旧阿知須町、徳地町の不燃物等は防府・宇部をお願いしている状況だが、平成 23 年度からは、旧阿知須町、徳地町も破碎選別を行っていく計画。また、破碎後のプラスチック類を焼却に回したいと考えており、その分が焼却にまわり埋立容量が減ることになる。

●平成 23 年度から破碎後のプラスチックを燃やすということだが、23 年度から焼却施設は改変等を行うのか。

<事務局>

今の焼却施設の持ち込みデータを見ると、事業系の紙類等リサイクルに回せるものがかなりある。その中で、リサイクルに回せるものは回して、減量化をしてその枠をプラスチックの焼却にあてたいと事務局では考えている。

●そういう努力はもっと以前から出来るわけで、そのような、最大限の努力はしていく必要があると思う。

<事務局>

減量化については、山口市廃棄物減量等推進審議会でも議論していただいているが、平成20年度のリサイクルセンターの稼働にあわせて開始できれば理想であると考えている。

●減量の方法だが、焼却場へ事業系のものが持ち込まれている。食品残渣等は食品リサイクル法が施行されており、指導を行うことが必要と思う。他にも事業系のものは色々あると思うが、結局市の焼却場へ持っていった方が安いので持ち込まれている状況も考えられ、法律に基づいてリサイクルの指導を行うことにより、焼却量も軽減できると思う。

<事務局>

神田最終処分場へは現在、産業廃棄物が一部持ち込まれている。今、数量規制をかけているが、平成20年度のリサイクルセンターの稼働にあわせて産業廃棄物の処理ルートに回していただけるように受け入れ態勢を変えていこうという計画もある。

●資料の表中には将来の処分量について細かい数値が出てくるが、これはかなり信頼性があるのか。

<事務局>

これは、今現在の可燃ごみや不燃ごみの一人あたりの量や一事業所あたりの量と今後の人口推移をもとに積み上げていったものがこの数値になるという想定。単純に人口が増えたからごみ量が増えるということではなく、家族が分離して新しい家を建てた場合にごみ量は増えるという現象などもあり、どこまで正確かというとは分からないが、人口と一人あたりのごみ量をもとにこの計画は算出している。

●将来的に、最終処分場を閉鎖した後どうすることなどについてのプランはあるのか。

<事務局>

跡地利用についての具体的なプランはできあがっていない。ただ、地元との協定の中で、跡地利用について地元と協議して、地元の意向を十分反映しながら有効利用することを交わしている。具体的にはないが、閉鎖時期が近づいたら地元と協議を行うということにしている。

●遮水工事がありますが、シートの耐用年数はどれくらいを考えているのか。

<事務局>

遮水工に関して遮水シートの必要性が述べられたのが平成元年であり、これ以

降の管理型処分場については遮水シートが使われる事が多くなっている。しかし、現時点でも18年しか経っていない状況。一般的に最終処分場の埋立期間は15年から20年。また、閉鎖後も（安定化まで）遮水機能を保つ必要があるため、概ね30年以上が目安になると思う。

遮水シートメーカー等では、室内実験でどれくらいの年数持つというデータはあるが、実際に施工されているシートでの検証はまだされていない状況。よって、漏水検知技術を導入している実績などもある。

●遮水シートのメーカーとしては半永久という目標になっている。最終処分場はモニタリング設備で地下水の検査を行う必要がある。また、今は浸出水の検査を行い、問題がないということが確認できないと廃止出来ないことになっている。

●確認だが、資料中の最終処分場の概要図の形・タイプ（従来型処分場）で、山間部であろうと平地であろうと設置するという事になるのか。

<事務局>

資料中にクローズド処分場の説明もあるが、私どもは地域社会との合意をいかに得られるかということを目指している。当然、クローズド処分場も視野に入れて願います。

●一般廃棄物最終処分場計画については、概ねよろしいか。

それでは、1の「山口市環境審議会への諮問について」に帰る。「山口市にふさわしい環境への負荷が少ない一般廃棄物最終処分場の施設・設備について」だが、その中で、山口市が環境審議会に諮問した内容と循環型社会に関するアンケート等と今後の予定については、宜しいかと思う。もう少し詳細に入るが、議論の中で水の浄化等があったが、技術面について、委員の方々はどのように考えているか。

●二つ問題があると思う。ひとつは浸出水をどれだけ浄化できるかという話と、廃棄物が残っているという問題。浸出水を考えたときに、埋立物が洗われて出てくるということになるが、上から積極的に水を与えて積極的に浄化することにより期間を短くすることも考えられる。そのような方法を検討すれば、その場所には洗われたものしか残らないということになり、住民を説得するにも優位になることも考えられるので、検討することが必要ではないか。

<事務局>

補足的に話をさせていただく。基本的に最終処分場の機能面の要求は埋立内容を降雨によって洗い出して浸出水として集水し、水処理して無害化して域外に放流する。これの繰り返しにより埋立物を無害化していく考え方。よって、埋め立てが終了しても管理していく必要がある。しかし、管理する期間については、一般的にどれくらいということではなく、埋立内容物が何かということにより変わってくる。山口市の場合は焼却灰が入らない処分場なので、他の自治体に比べるとかなり違う（短くて済む）と思われる。よって、どの程度の期間で安定化できるかは難しいが、神田処分場の水質検査結果を見ると、浸出水原水そのものはか

	<p>なりきれいであると見受けられる。</p> <p>●概ねきれいだが、有機物はあまり入っていないと思うが、窒素が少し高いと思う。</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>推測だが、毎年春に各町内の清掃月間ということで町内の溝掃除などを実施されている。その回収物を処分場に持ち込んでいたと思うので、そのような汚泥関係により窒素が高くなっているのではないかと考えられる。</p>
<p>会議資料</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1回山口市環境審議会廃棄物埋立処理研究部会次第及び席次</li> <li>2. 第1回山口市環境審議会廃棄物埋立処理研究部会配付資料</li> <li>3. 第1回山口市環境審議会廃棄物埋立処理研究部会参考資料</li> <li>4. 神田最終処分場水質検査結果</li> </ol>
<p>問い合わせ先</p>	<p>環境部 環境保全課 環境企画担当</p> <p>TEL 083-941-2180</p>